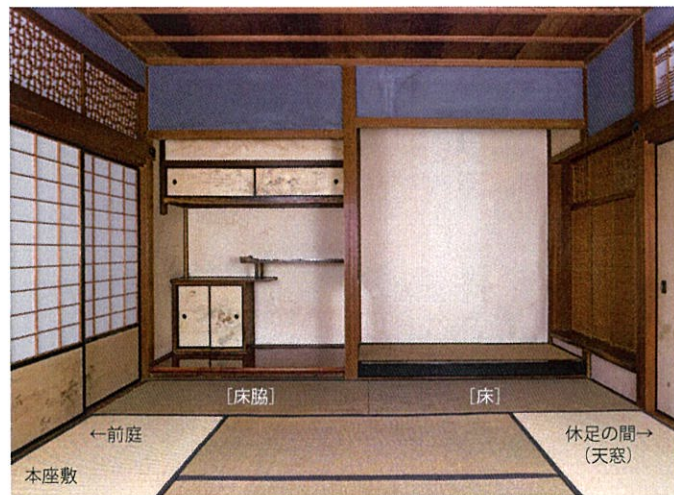


国重要文化財

中村家住宅



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船主寄港地・船主集落～



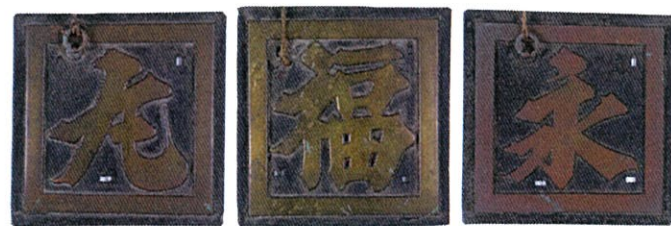
何かがちがう？本座敷の床の間

中村家主屋本座敷の床の間は、あまり見られない構えをしています。伝統的な構えは、明るい庭側(正面左側)に書院障子のある「床」を設け、その脇に違い棚などの「床脇」を並べますが、中村家は「床」と「床脇」の位置が左右反対となっています。その理由は、本座敷右手奥にお殿様がお休みになる「休足の間」があり、そちらを上手にしたことが考えられます。ただし、この配置では、書院障子が暗くなるため、中廊下に採光用の天窓を設けました。



扁額「冬青舎」[次の間]

「冬青」はモチノキ、「舎」は屋敷を意味し、揮毫者は幕末の越前福井藩主・松平春嶽(慶永)です。中村家をはじめとする河野浦の北前船主は、商売繁栄や家内安全の願いをこめて、庭にモチノキを植える習わしがありました。扁額は中村家を訪れた松平春嶽が本座敷から眺めた様子を書き表し、中村家に贈られたものです。

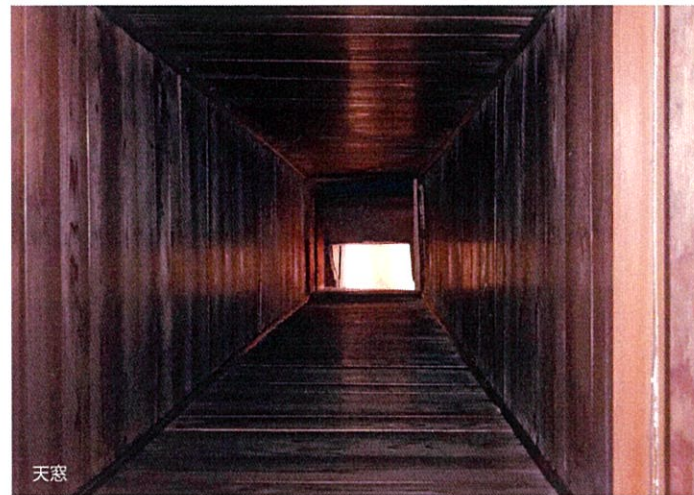


船名板「永福丸」

船の名を記した表示板。銅板に船名を打ち出して、船尾の「結び」部分に取り付けられていました。

船絵馬 安全丸、安静丸、永福丸、長福丸、幸吉丸

磯前神社に奉納された船絵馬。5艘のうち4艘(安全丸、安静丸、永福丸、長福丸)は中村家の持船で、残り1艘(幸吉丸)は中村家と刀禰家の歩持ち船(共同所有の船)です。絵馬枠には飾り金具がつけられています。



ご利用案内

- 開館時間 9:00～16:30 (最終受付 16:00 まで)
- 休館日 毎週水曜日
年末年始 (12月29日～1月3日)

観覧料	区 分		金 額	
中村家住宅	大人(高校生以上)		300 円	
	小人(小・中学生)		200 円	
右近家・中村家 共通観覧券	大人(高校生以上)	500 円	団体 450 円	
	小人(小・中学生)	300 円	団体 270 円	
※団体料金は 20 人以上より適用				

中村家関係資料は河野の宝です。下記事項をお守り下さい。

1. 展示品に触れないこと。
2. 展示品の近くでインク・墨等を使用しないこと。
3. 展示品の模造模写はしないこと。
4. 館内では飲食及び喫煙をしないこと。
5. 他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
6. その他係員の指示に従うこと。

アクセス

お車でお越しの方は

- 石川・福井方面からお越しの方は
北陸自動車道南条スマート I.C. より国道 305 号経由で約 20 分
北陸自動車道武生 I.C. より国道 8 号・国道 305 号経由で約 30 分
- 関西・中京方面からお越しの方は
北陸自動車道今庄 I.C. より国道 365 号・国道 305 号経由で約 20 分

鉄道でお越しの方は

- 北陸新幹線でお越しの方は
越前たけふ駅よりタクシーで約 25 分
敦賀駅よりタクシーで約 35 分
- ハピラインふくいでお越しの方は
武生駅より福井鉄道バス王子保・河野海岸線
「河野住民センター前」下車、徒歩 1 分



国重要文化財 中村家住宅
〒915-1111 福井県南条郡南越前町河野 1-55
TEL(0778)67-3781 FAX(0778)67-1543

中村家について

中村家は、代々「三郎右衛門」を通称し、明治時代から「三之丞」を名乗っていました。伊予国の豪族河野氏が率いる河野水軍の流れを汲み、南北朝時代の金ヶ崎合戦時に南朝方新田義貞勢に加わり、その後、河野浦に移り住んだと伝えられます。

江戸時代には河野浦の「高持」の家として庄屋役を務めるとともに、幕府の廻国巡見使の一番宿を務めたこともありました。また、江戸時代中期から廻船業を始め、幕末から明治時代中期にかけて、右近権左衛門とともに北前船主として隆盛を極めました。

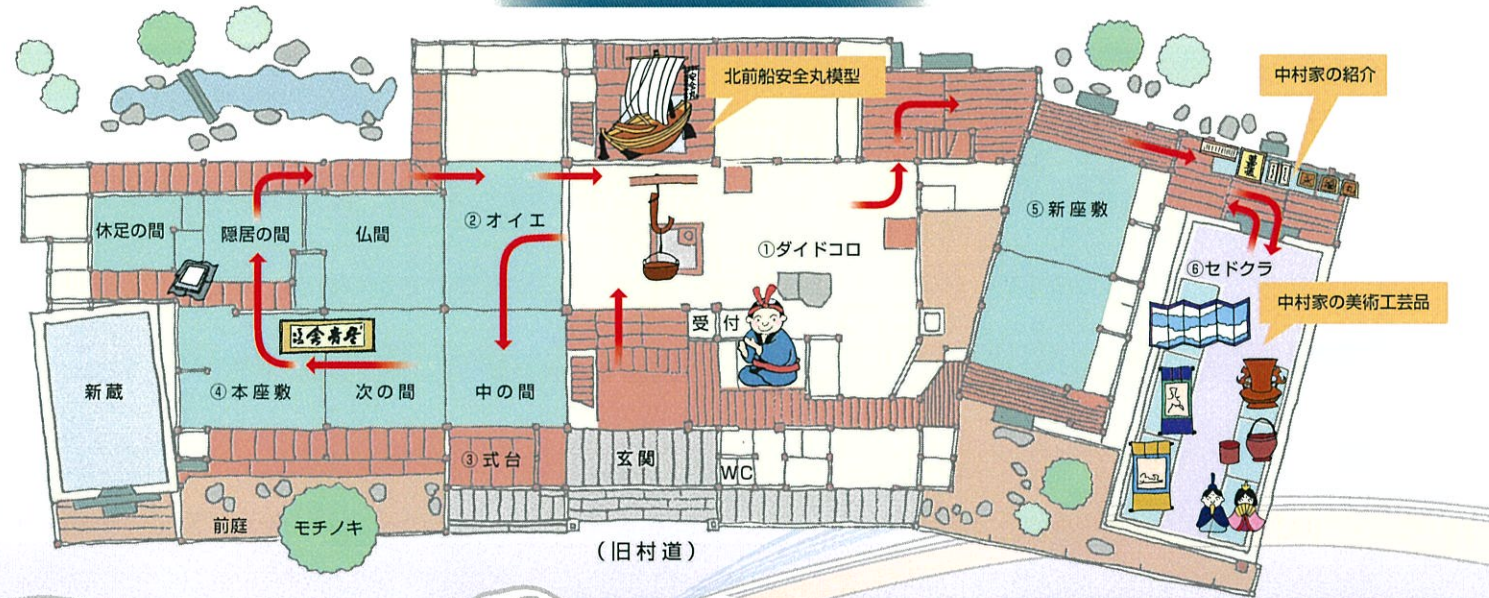
明治時代には、右近権左衛門とともに北前船経営によって得た利益の一部を投じて、武生から春日野を経て河野浦に至る「春日野新道」を整備しました。また、河野・敦賀間に小型蒸気船による航路を開設し、武生・敦賀間の物資輸送を担う海陸運輸会社を設立する等、地域交通の発展に多大な功績を残しました。

中村家の建物

中村家の建物は、主屋、新座敷、隣接するセドクラと新蔵、旧村道を挟んで正門があり、西蔵、バング蔵、前蔵、米蔵、浜蔵、塩物蔵の土蔵群で構成されます。平成二七年（二〇一五）、「独特な屋敷構えと三階建座敷を持つ北前船主の大規模邸宅」と評価され、国の重要文化財に指定されました。

各建物は中村家が繁栄を極めたころ、明治中期から大正初期にかけて建てられました。主屋は明治二〇年（一八八七）の建築で、規模が大きく、接待空間の座敷は上質な木材を用い、端正な佇まいをみせます。一方、生活空間のダイドコロの高い吹抜け空間は豪壮です。新座敷は大正二年（一九一三）の建築で、洋風の階段を取り入れ、各座敷で意匠を変えるなど、趣向を凝らした造りとなっています。三階にある望楼からは敦賀湾が見渡せ、かつてここから往來する船を眺めたと言われています。

中村家観覧マップ



新蔵



土蔵、正門(左から米蔵、前蔵、正門、バング蔵、西蔵)

- ①ダイドコロ**
生活空間であったダイドコロは高い吹抜けが特徴。中央に囲炉裏を配するほか、かまどや井戸がある。
- ②オイエ**
当主家族の食事場所。一畳の板畳は、ダイドコロから給仕を行うための配膳板。
- ③式台**
格式の高い来客者を迎える「玄関」のこと。中村家がかつて江戸幕府の巡見使の宿であったことにちなんで設けられた。
- ④本座敷**
独特な床の間の造り（詳細は裏面参照）は必見。武生の画家、河野登清が描いた花鳥の彩色画の模も美しい。
- ⑤新座敷**
1、2階は数寄屋造りの客間座敷、3階は望楼座敷で構成されており、1階から3階までを結ぶ洋風の階段はすべて樺材で造られている。
- ⑥セドクラ**
基礎石は笏谷石を用いており、正面入口には家紋の「違い鷹の羽」が装飾されている。土蔵造りの壁は約30センチと大変厚く、防火性に優れている。



⑤新座敷一階 主座敷



③新座敷三階 望楼（特別公開時のみ観覧可）



⑥セドクラ



主屋外観



③主屋 式台